

ひと目でわかる ESD推進事業ガイド

本冊子は平成28年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」によって制作されています。

はじめに

この冊子を手にとっていただきましたことを心より感謝申し上げます。

本冊子は、ユネスコスクールであるなしに関わらず、持続可能な開発のための教育（ESD）に携わる全ての皆様の一助になればとの思いで作成いたしました。

日本のユネスコスクールは、2005年から始まった国連ESDの10年（DESD）をきっかけに、ESDの推進拠点として位置づけられ成長してきました。この10年の間に加盟校の数が飛躍的に増加したのみならず、それぞれの学校のESDの実践が広がってきています。2015年以降もESDの推進は継続され、その実践は深化の過程にあります。さらに、昨今ESDはユネスコスクールに限ったものではなく、すべての教育現場でそして地域でその実践が求められてきております。

一方で、学校現場からユネスコスクール事務局には様々な質問やご意見をいただきます。例えば、「ESD担当者になったけれど、何をしたらよいのでしょうか?」「担当者が異動になってしまったため、ESD活動が続けられなくなってしまった」「上司から言われてやっているが、負担で…」 「ユネスコスクールになったけど、どんなメリットがありますか?」など、先生方の戸惑った顔が目につかびます。

本冊子は、ESDの活動の先にあるもの、すなわち、ESD活動が「活動」で終わってしまわないためにどうしていけばよいのか、そのような視点からユネスコスクール事務局として支援させていただいている事業をご紹介します。少しでも本冊子がお役に立ち、そして先生方の「戸惑った顔」が、「笑顔」に変わるきっかけとなりましたら、ユネスコスクール事務局としては大変嬉しく思います。最後に、ユネスコスクール事務局では皆さまのご意見やご助言をいつでもお待ちしております。皆さまと共に持続可能な未来へ向けての変化の担い手でありたいと考えています。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
ユネスコスクール事務局



目次

- 02……………はじめに
- 03……………目次・用語一覧
- 04-05………ESDに参加しようーあなたにぴったりのプロジェクトは？ー
- 06……………ユネスコスクール事務局
- 07……………ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）事務局
- 08……………ESD重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～
- 09……………気候変動をテーマにしたホールスクールアプローチ実践プロジェクト
- 10……………ESD Food プロジェクト
- 11……………「ESD推進の手引」を活用した研修事業
- 12……………その他の研修事業
- 13……………UNESCO、そして ACCU の教育協力分野での歩み
- 14-15………ユネスコ・アジア文化センターについて
- 16-17………ESD 推進のための関連資料

用語一覧

- ACCU……………公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
- ASPnet……………ユネスコスクール
- ASPUnivNet……………ユネスコスクール支援大学間ネットワーク
- DESD……………国連持続可能な開発のための教育の10年
- ESD……………持続可能な開発のための教育
- GAP……………グローバル・アクション・プログラム
- SDGs……………持続可能な開発目標

ESDに参加しよう
あなたにぴったりの
プロジェクトは？

START!

ESDに対して
十分な理解がある。

- A. Yes
- B. No

ユネスコスクールに
加盟している。

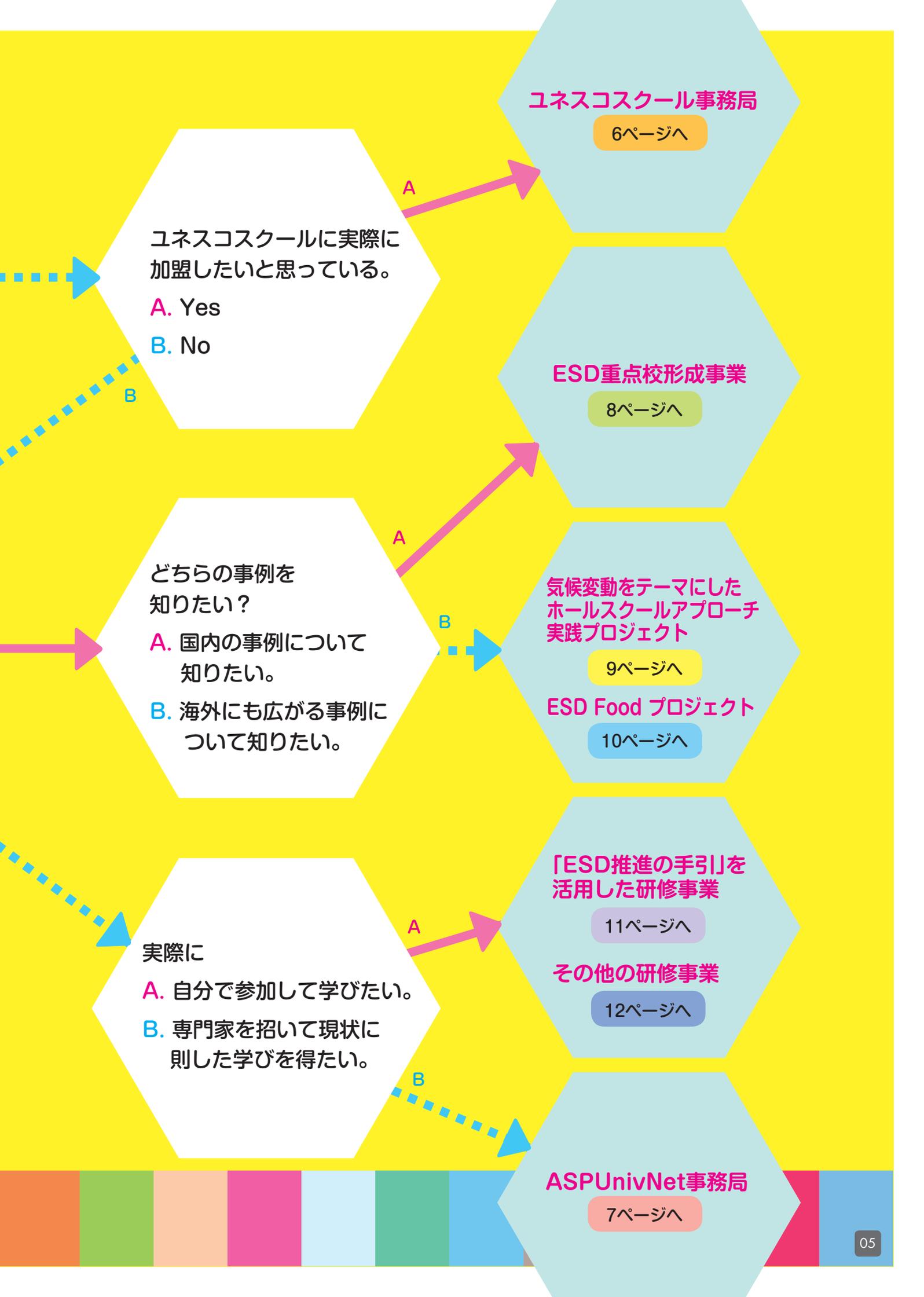
- A. Yes
- B. No

ESDに関する

- A. 具体的な事例を知りたい。
- B. 概念から幅広く知りたい。

A. 

B. 



ユネスコスクールに実際に
加盟したいと思っている。

- A. Yes
- B. No

ユネスコスクール事務局
6ページへ

ESD重点校形成事業
8ページへ

どちらの事例を
知りたい？

- A. 国内の事例について
知りたい。
- B. 海外にも広がる事例に
ついて知りたい。

気候変動をテーマにした
ホールスクールアプローチ
実践プロジェクト
9ページへ

ESD Food プロジェクト
10ページへ

実際に

- A. 自分で参加して学びたい。
- B. 専門家を招いて現状に
則した学びを得たい。

「ESD推進の手引」を
活用した研修事業
11ページへ

その他の研修事業
12ページへ

ASPUnivNet事務局
7ページへ

ユネスコスクール事務局

—ユネスコスクール加盟を支援し、
ESD 推進拠点としてのネットワークを広げるために—

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、ユネスコスクール事務局として2008年から約10年間ユネスコスクール加盟の支援をしてきました。10年前は20校であったユネスコスクールも、2017年10月時点で1,034校と劇的に増えました。この数は世界の中でも最多を誇り、かつ181か国に存在する全ユネスコスクール加盟校の約1割を占めています。

事務局の役割として、ユネスコスクールの加盟申請をサポートするだけでなく、2015年より世界の目標となった持続可能な開発目標（SDGs）の目標4に掲げられている「質の高い教育」を目指し、ユネスコスクール各校が継続して持続可能な社会のための教育活動に取り組めるような支援をおこなっています。

事務局としての具体的な活動は以下のとおりです。

・ユネスコスクールに関する総合相談窓口と申請手続きのための支援

ユネスコスクール事務局では、ユネスコスクールに関する総合相談窓口を開いています。加盟承認までのお手伝いとして、加盟申請方法についての問い合わせに応じたり ASPUnivNet から技術的支援を受ける際の連絡調整をしたりしています。加盟申請に係る手続きの方法やよくある質問は、ユネスコスクール公式ウェブサイトにも掲載しています。＜参考＞「ユネスコスクール加盟申請の手引き（初版）」をご覧ください。また、ご不明点がございましたらメールやお電話でも質問を受付ています。お気軽にご連絡ください。



・ユネスコスクール加盟後の活動支援（研修会の実施）

ユネスコスクール加盟後の活動支援の1つとして、職員の出前講座を行っています。取り扱われる内容は「ESDとは」「ユネスコスクールとは」「ユネスコスクール加盟方法について」「ユネスコスクール加盟後の支援について」等多岐にわたります。

実績（平成29年度）：7件

京都外国語大学 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク加盟 記念イベント
2017年度 広島 ESD コンソーシアム研修会
ESD コンソーシアム愛知交流会
平成29年度金沢ユネスコスクール担当者連絡会
愛知県ユネスコスクール交流会
ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2017
第9回 ユネスコスクール全国大会

・国内外のユネスコスクール交流のためのマッチング

国内外に広がるユネスコスクールネットワークを促進するためのマッチングを行っています。平成29年度は日本国内（中学校）、ニュージーランド（小学校）、韓国（高校）、タイ（中高一貫）を含む4件のマッチングが成立したほか、アメリカ、インドなど複数のリクエストについて継続支援中です。ACCUの海外ネットワークを活かし、各国ユネスコスクールの架け橋となっています。

・ユネスコスクール公式ウェブサイトの運営・管理

ユネスコスクール公式ウェブサイトの運営・管理を行っています。同ウェブサイトでは、ユネスコスクール加盟校情報を検索したり、ユネスコスクールやESD関連のイベント情報を入手したりすることができます。また、加盟校同士の交流促進のための会員専用ページも設けています。ユネスコスクールへの加盟方法についても確認することが可能です。

■ユネスコスクールに関するお問い合わせ

Email: webmaster@accu.or.jp

電話番号：03-3269-4559

Fax：03-3269-4510

ユネスコスクール公式ウェブサイト

<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>



ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet) 事務局

—高等教育機関によるユネスコスクールへの
円滑な支援を実施するために—

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet) は、2008年12月に設立されて以来、約10年間ユネスコスクール加盟のための申請書作成に係るサポートや、加盟後の研修会実施、ユネスコスクールやESDに関する調査・分析などを継続的に行ってきました。現在では、20大学(2018年1月時点)が地域に根差したESD活動の支援を継続的に行っています。

このようなASPUivNetの活動が円滑に進むよう、ACCUは2015年から事務局としての機能を担っています。高等教育機関と各地のユネスコスクールの連携が進み、協働でESDの発展を目指していけるようなサポートを引き続き行っていきます。

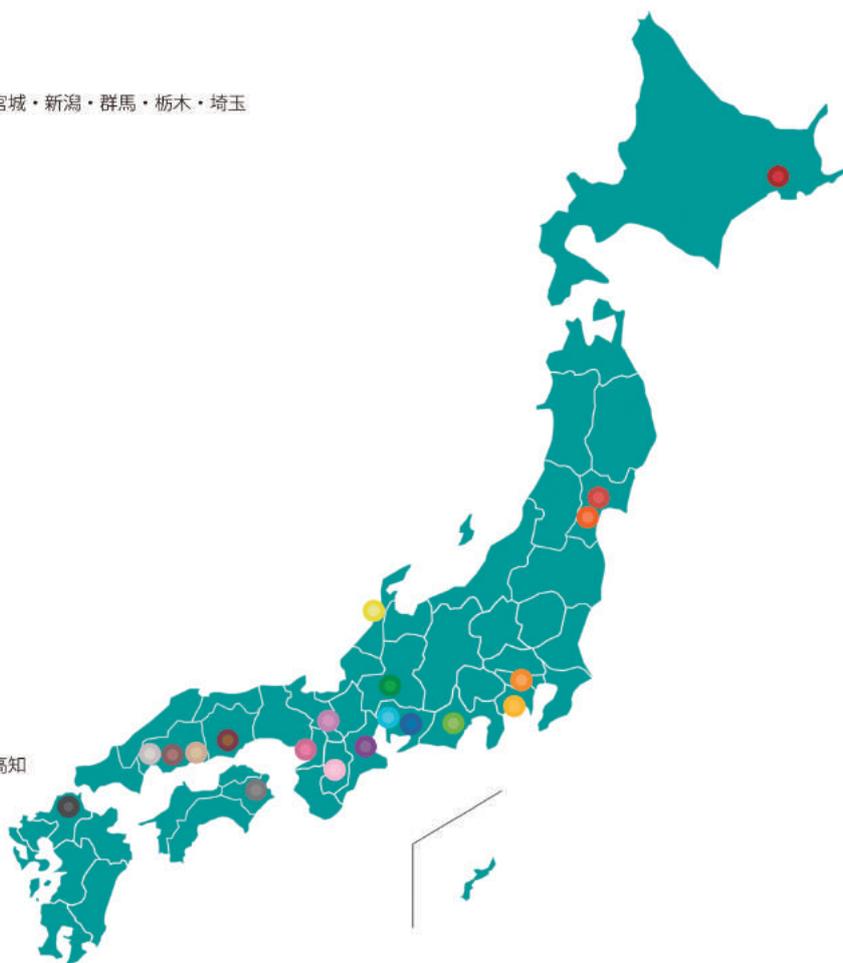
事務局としての具体的なサポート内容は以下のとおりです。

- ・加盟大学間、加盟大学と文部科学省間の連絡調整
- ・ASPUivNet情報共有のための連絡会議開催(年2回)
- ・ASPUivNet活動周知のためのパンフレット作成
(日本語・英語)
- ・ASPUivNetウェブサイトの運営・管理
- ・ASPUivNetが全体で取り組むプロジェクトへの支援
- ・ユネスコスクール年次活動調査票作成、実施、分析への協力



ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet)

- 北海道教育大学 … 北海道
- 東北大学 … 宮城・山形・福島
- 宮城教育大学 … 岩手・青森・秋田・宮城・新潟・群馬・栃木・埼玉
- 玉川大学 … 東京・茨城
- 東海大学 … 神奈川・千葉
- 金沢大学 … 石川・富山・福井
- 静岡大学 … 静岡・山梨
- 岐阜大学 … 岐阜
- 愛知教育大学 … 愛知
- 中部大学 … 愛知
- 三重大学 … 三重・長野
- 京都外国語大学 … 京都
- 大阪府立大学 … 大阪・兵庫
- 奈良教育大学 … 奈良・和歌山・滋賀
- 岡山大学 … 岡山・鳥取・島根
- 広島大学 … 広島・山口
- 福山市立大学 … 広島
- 広島市立大学 … 広島
- 鳴門教育大学 … 徳島・香川・愛媛・高知
- 福岡教育大学 … 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄



ESD 重点校形成事業 ～輝け！サステイナブルスクール～

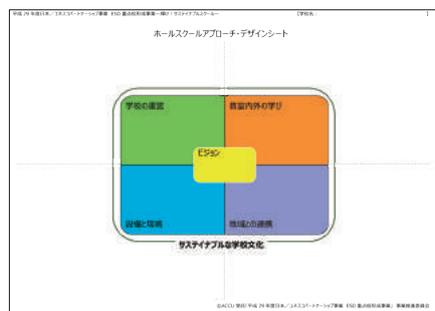
—学校の個性を生かした ESD の
取組みを応援し、活動を広げるために—

2016年9月、全国公募を経て、自校でESDをさらに深め、その活動を広げていくことに積極的、かつESDに魅力を感じその可能性を共に育てていくことのできる24校が、ESD重点校（以下、サステイナブルスクール）として選ばれました。サステイナブルスクールは、教育を通じて持続可能な未来、社会を構築することを目指して、実践的な取組みを行っています。

平成28年度に引き続き2年目となる今年度は、ホールスクールアプローチ¹を実践するため「ホールスクールアプローチ・デザインシート」を導入しました。各学校の教職員の共通価値として根付くキーワードを「ビジョン」として設定し、「学校の運営」「教室内外の学び」「設備と環境」「地域との連携」の4つの場での取組みを並べてみることで、学校全体で取り組むことができているかを概観することができます。

第1回目の研修会（7月）では、それぞれの学校の取組みにスポットライトを当て、学びあいの場をもつとともに、デザインシートの作成に取り掛かりました。第2回目の研修会（12月）では、ビジョン決定のプロセスについての学習会を行いました。このように、24校が定期的に集まり、各校の取組みを知る機会が増えることで、サステイナブルスクール間の交流は徐々に盛んになってきています。交流を通して、日ごろ関わることのなかった地域・校種と出会うことで、教職員、子どもたちの価値変容が起こっています。

ホールスクールアプローチ・デザインシート



サステイナブルスクール間交流実績（平成29年度）

交流校	交流内容
名古屋国際中学・高等学校 × 福山市立福山中・高等学校	〈生徒交流〉 ・福山市立福山中・高等学校への訪問と活動報告会 ⇒夏休みを活用し生徒が広島県訪問について企画し実現
千葉県立桜が丘特別支援学校 × 登米市立米谷小学校、箕面こどもの森学園	〈児童・生徒交流〉 ・作品交流 ⇒交流方法の詳細は、自己紹介カードの交換、合同制作の図工作品交流、ビデオレター、歌交流など
目黒区立五本木小学校 × 京田辺シュタイナー学校	〈教職員交流〉 ・京田辺シュタイナー学校への訪問と授業見学 ⇒メインレッスン、おにぎりタイム、手仕事、園芸の時間を見学、体験
京田辺シュタイナー学校 × 横浜市立永田台小学校	〈教職員交流〉 ・横浜市立永田台小学校への訪問と授業見学 ⇒朝から終日見学し、放課後の学年振り返りワークショップにも参加

このように、交流を通して自校のよさを知り、活かすこと、そして交流を通して他校のよさを知りながら、よりよい学びについてともに模索することは、持続可能な社会づくりにとって大切な要素です。ACCUはこれからもサステイナブルスクール各校の独自の取組みにスポットライトを当てていくとともに、各校の活動がさらに輝く、わくわくするような仕掛けをしていきます。近い将来、そんな活動が日本を飛び出し世界へと広がっていくよう、ACCUも共に成長しながら、活動を発信していきます。

¹ ホールスクールアプローチについては、「気候変動をテーマにしたホールスクールアプローチ実践プロジェクト」(9ページ)を参照



気候変動をテーマにした ホールスクールアプローチ実践プロジェクト

—ホールスクールアプローチを軸に
地球規模の課題を解決していくために—

2014年11月に採択された「あいち・なごや宣言²」に基づき、ESD グローバル・アクション・プログラム (GAP)³が始動。ACCUもユネスコのキーパートナーとして「機関包括型アプローチ」の分野で活動を展開しています。

2016年9月からは、日本のユネスコスクール10校が気候変動をテーマとしたユネスコのフラッグシッププロジェクトに参加し、セネガル共和国で開催された国際ファシリテーター研修(2016年6月)、国内研修(2017年1月)を経て、2017年春までにそれぞれの特色を生かしたアクションプランを策定しました。

アクションプランの策定に当たっては、ユネスコが提案する機関包括型アプローチの枠組みに沿って、「スクールガバナンス」「指導と学習」「設備と運営」「地域との連携」の4領域における自己ベースライン調査を行い、各学校が強化したいと思う領域において、具体的な活動内容を考える作業を行いました。2017年7月の情報共有会までに特色溢れる10校のアクションプランが出揃い、年度を通じて様々な実践が行われています。

また、本プロジェクトは世界各国で同時多発的に取り組まれているのが特徴です。2018年3月現在、日本を含む25ヶ国約250のユネスコスクールが、気候変動という地球規模の共通課題へ向けた学校・地域レベルの取り組みを実践し、ビデオ会議等を通じてその成果を共有し合っています。



セネガル共和国ダカールで開催された国際ファシリテーター研修にて



日本からの参加10校とアドバイザーの先生方

本プロジェクトでユネスコが提案する 機関包括型アプローチの枠組み



2 「ESD推進のための関連資料」(17ページ参照)

3 「ESD推進のための関連資料」(17ページ参照)



UNESCO Global Action Programme on
Education for Sustainable Development



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



ESD Food プロジェクト

—国際協働学習を通じて
多様な価値観を知り問題解決力をはぐくむために—



持続可能な社会をつくる「変化の担い手」となる児童生徒の育成を目指し、ACCUは2010年から国際協働学習プロジェクトを企画・運営してきました。テーマや相手国の変遷を経て、現在は「ESD Food プロジェクト」を展開しています。

2016年度は各国 NGO や政府機関の協力を得て、タイ、インド、インドネシア、日本の4カ国で実施しました。国内レベルでの参加も含め合計28校が参加し、「『食』に焦点を当てた持続可能なライフスタイル」をテーマに、複数のグループに分かれて国際協働学習を進めました。各国コーディネーターや参加校教員の代表を招へいし、対面で議論する機会を設けたほか、各学校同士は郵便やE-mail、Skypeなどを利用して交流を深めています。

プロジェクトを通じて、児童生徒たちは、様々な地球規模課題が自分たちのコミュニティや国で「食」にどのような影響を及ぼしているかを調査し、各国の状況を共有した上で、問題解決のための議論を深めました。

2017年度からは、学校同士のより自立的な連携を尊重し、各国コーディネーターとの調整を図りつつ、学校間のパートナーシップの発展を見守っています。また、国内の参加校には、ACCUが主催する別事業においてプロジェクトの成果を児童生徒が発信する機会を提供するなどして支援しています。

ACCUはこれまで培ってきた海外とのつながりを軸として、これからも継続的に国際協働学習の場を提供し、国を超えた学び合いの支援を行っていきます。



「ESD 推進の手引」を活用した研修事業

—ESD を知りたい、
ESD に関する研修会を開催したい人のために—

当センターの職員も有識者として作成に携わった「ESD 推進の手引」（以下、ESD 手引）が、2016年3月に文部科学省および日本ユネスコ国内委員会より発行されました。この手引を使用し、ESD を周知し拡大していくことを目的とした研修会を全国で開催しています。平成29年度は、長野県（10月）、大分県（11月）、愛知県（12月）、広島県（1月）の4か所で実施し、それぞれの地域の特性を生かした研修会となりました。実施内容は以下の通りです。

【長野県】

日本ジオパークネットワークと協働し、中央アルプスジオパークの1つである長野県伊那市での開催が実現しました。講師は、横浜市立永田台小学校校長の住田昌治氏、ジオパークにも造詣の深い静岡大学教職センター学術研究員の山本隆太氏をお迎えし、学校そして地域、学術界など様々な立場からESDを概観する時間をもちました。ESDは学校に限らず様々なフィールドでも重要なキーワードとなっていると感じ、考える時間となりました。

【大分県】

指導主事向け研修会の一部をESD手引研修として活用し、手引作成に携わった有識者の一人である東京大学海洋アイアンズ海洋教育促進研究センターの及川幸彦氏をお招きし、「ESDを軸にした教育活動」というテーマで講演を行いました。

【愛知県】

理論編と実践編に分け、参加者にとってわかりやすい研修構成にし、午前中はESD推進の手引を活用した講演を広島市立大学准教授のト部匡司氏をお招きして実施しました。午後の前半は学校におけるESD推進のキーワードを箕面こども森学園教諭の高原麗奈氏に学園の取組みの報告とともに発信いただき、後半は多摩市立連光寺小学校校長の棚橋乾氏をお招きして、ワークショップを通してESDを学校に浸透させる方法について考えました。持続可能な発展をどのように学びに落とし込んでいくかという問いが、終日、学びの中心に置かれました。

【広島県】

100年先の教育を展望し教育改革に取り組む広島県福山市での開催が実現しました。講師として、神奈川県立有馬高等学校社会科講師の望月浩明氏、パネラーとして広島大学大学院研究員・ESDコーディネーターの島津礼子氏、福山市立福山中・高等学校校長の向井勝也氏をお迎えし、ユネスコスクール及びESDを学校に位置づけたときの魅力について話が進んでいきました。午前中は、新しくなったユネスコスクールの加盟方法についての説明会を実施しました。午後は、ユネスコスクールやESDを語る際のキーワードとなる「ネットワーク」について学び、実感し、考える時間となりました。

研修会はESDをわかりやすく解説するとともに、手引の使用方法も実践的に学ぶことができるような構成となっています。参加者から集めたアンケート結果によると、参加者の99%が本研修会が役に立ったと回答し、ご好評を頂いていることが分かります。



その他の研修事業

—ESD、そしてSDGsについて より多くの方の理解と行動を促すために—

ACCUでは、ESDの普及促進とその先にあるSDGs⁴の達成に貢献するために、自分たちの持つ知見やネットワークを活かして様々な事業を展開しています。ここでは、その一部をご紹介します。

SDGs子どもワークショップ

小学校1年生から高校1年生までの児童生徒、保護者や教員を含む49名が、「食」を中心に据えた二つのワークショップ(①「食でつながる世界とわたし」、②「世界がもし100人の村だったら」とポスターセッションを通じて、個人と世界とのつながりを体感し、貧困や格差、エネルギー問題などについて共に考えました。NPO法人コモンビート理事の韓朱仙先生にも講師としてご協力いただきました。

ワークショップの最後には自分たちには何ができるのか、身近な取組みから大きな目標まで、大人も子どもそれぞれにアイデアを出し合い、リンゴの木にたくさんの「アイデアの実」が実りました。



国際ESDワークショップ

GAP⁵の「機関包括型アプローチ」いわゆるホールスクールアプローチのキーパートナーであるACCUは、その使命を果たすべく、ホールスクールアプローチによる国際的なESD優良事例を広く国内に紹介し、ユネスコスクール等の学校における取組みの深化を図ることを目的とした国際ESDワークショップを開催してきました。

2016、2017年度は英国アシュレイ・プライマリー・スクールのリチャード・ダン校長を講師にお迎えしました。校長が自然との調和を追求する中で見出した7つの法則をベースに、日々の教育にいかにか持続可能性についての学びを取り入れているのか、参加者は時に生の魚や果物を目の前に置き、時に輪になって歌いながら体感しました。国内外におけるESDの現状に精通する聖心女子大学の永田佳之教授にアドバイザー役を担っていただくことで、日本の文脈に照らした適切なアプローチが実現しました。



4 持続可能な開発目標(17ページ参照)

5 グローバル・アクション・プログラム(17ページ参照)

6 2016年度ワークショップの詳細は『キラリ発進! サステナブルスクール~ホールスクールアプローチで描く未来の学校~』で特集しています。(16ページ参照)

UNESCO、そしてACCUの教育協力分野での歩み

ACCUはユネスコの方針に沿って設立され、活動を進めてきました。平和で持続可能な社会のための教育の実現のために、これからもユネスコとともに歩んでいきます。



UNESCO

ACCU

【ユネスコ憲章】

戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない
"Building Peace in the minds of men and women"

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）について

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく
ACCU は日本と世界の人々と共に学びの輪を広げます

ACCU はユネスコの基本方針に沿ってアジア太平洋地域と日本国内で教育と文化の分野で活動しています。2015 年からは、ユネスコが実施する GAP のキーパートナーとして各方面と連携したプロジェクトの更なる発展に寄与しています。

ACCU は主に、「教育協力事業」「人物交流事業」「模擬国連推進事業」「文化遺産保護協力事業（奈良）」の 4 つの柱のもとさまざまなプログラムを行っています。

教育協力事業

文部科学省委託事業日本／ユネスコパートナーシップ事業に係る、ユネスコスクールや ESD 推進に関連する主な事業は本冊子に掲載のとおりです。ここでは、その他の事業を紹介します。

若者主体の持続可能な コミュニティ開発プロジェクト

アジア地域の若者（15～35 歳）が、みずから持続可能な未来に向けてコミュニティ開発に取り組むプロジェクトです。ACCU はアジア地域の NGO と連携し、これまでにパキスタン、インドネシア、フィリピン、インドにおいて活動を展開してきました。女子のためのノンフォーマル教育施設が設立されたり、村の道路が整備されお年寄りに優しい村づくりが実現したりするなど、目に見える様々な成果が報告されています。

2017 年は過去 4 年間にわたる各国での実践の集大成として、若者がいかに地域の発展を思い描き行動に移してきたのか、その活動を通じて彼ら彼女ら自身が、あるいは地域がどのように変容してきたのかを記録したストーリーブックを作成しました。ストーリーブックでは、現地に取り入れられてきた様々な手法についてもご紹介致します。



SMILE Asia プロジェクト

SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で識字能力を使い続ける環境を、現地の団体と一緒に作っています。これまでにアジアの 7 か国で展開してきました。

2008 年から活動しているカンボジアの場合、基礎教育を受ける機会を奪われ、基本的な読み書きを習得できないまま成人となった人々が 240 万人存在し、そのうちの 70% が女性だといわれています。2017 年度はプノンペン市より 45 km ほど離れた場所に位置するコンボンスプー州の 5 つの村において、75 名の成人学習者を対象に活動を実施。現地をモニタリング訪問したり、参加者からプロジェクトに関するヒアリングをしたりするなどし、現地のニーズをより把握できるよう努めました。これまでに 55 の村で 1,220 人以上

の女性が識字を身につけ、自信を高めています。

このプロジェクトはチャリティーコンサートを開催してご支援くださる凸版印刷株式会社はじめ、皆さまからのご寄附により行っています。

人物交流事業

教職員・生徒間交流プログラム

日本と海外の教職員や生徒間の相互理解と友好の促進を目指して、初等中等教職員等交流プログラム（派遣・招へい）を実施しています。各プログラムの期間は1週間程度で、「参加・交流によって学びを深め、多文化・異文化を理解し、参加者自身が変容していく」という目的のもと、参加者は様々な地域の学校や教育・文化施設等を訪問し、現地の教職員や児童・生徒と交流します。

また、プログラム参加後の交流についても、マッチングや相談などのサポートを行っています。

教職員招へいプログラム対象国：中国、韓国、タイ、
インド

教職員派遣プログラム対象国：中国、韓国

高校生招へいプログラム対象国：タイ



模擬国連推進事業

高校模擬国連

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人／グローバルなリーダーを育成することを目的にグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連事業を実施しています。2012年度から高校模擬国連事務局として全日本大会を共催するほか、同大会での優秀チームを国連本部で開催される国際大会へ派遣しています。

2017年度からは、更に裾野を広げるべく、高校教員らと

協力し、主に初心者を対象とした模擬国連大会を開催しています。

文化遺産保護協力事業

文化遺産の調査・研究の中心である奈良に文化遺産保護協力事務所（ACCU 奈良事務所）を設置し、国際機関と連携して文化遺産保護や文化財の保存修復を担う人材育成のための研修や国際会議を開催しています。また、県内の高校への出前授業や一般市民向けのセミナーも行っています。

ACCU に関する広報物

ACCU ニュース

年3回発行されている ACCU の機関紙です。ACCU が携わる ESD 関連事業はもちろん、国際教育協力や人物交流などに関する様々な事業情報を発信しています。

<http://www.accu.or.jp/jp/accunews/2017.html>



ACCU ホームページはこちら！

<http://www.accu.or.jp/jp/index.html>

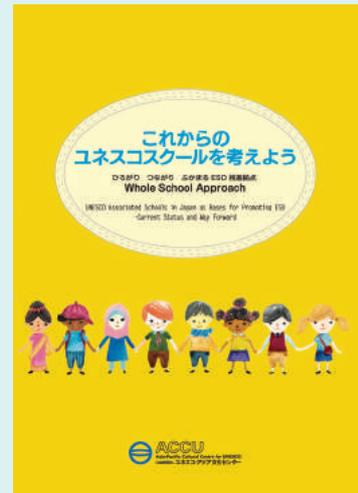
Facebook へのいいね！をお願いします。

<https://www.facebook.com/accu.or.jp/?fref=ts>



「協働学習プロジェクトをはじめよう - ESD Food プロジェクトの実践から」(2016) (言語: 日・英)

国際協働学習プロジェクト「ESD Food プロジェクト」の取り組みをまとめたものです。このプロジェクトでは、「食」をテーマに学校が位置するコミュニティや国、世界を持続可能な社会とするために、児童生徒の皆さんが「変化の担い手」となり活動しました。日本から7校、インドから5校のユネスコスクール加盟校および加盟検討校が参加した、2015年9月から2016年1月末までの活動について紹介しています。



「これからのユネスコスクールを考えよう - Whole School Approach」(2016) (言語: 日・英)

2015年12月に開催されたワークショップ「これからのユネスコスクールを考えよう」の様子をまとめました。このワークショップは二部構成で行われ、第一部ではイギリスからESDおよびサステイナブルスクールの専門家であるアン・フィンレイソンさんからホールスクールアプローチについて学び、第二部では企画の段階から一緒に準備をしてくださった加盟校の先生から「国内のネットワークを立ち上げ、互いに学び合おう」ということが提案され、ネットワークを介して、各々が何を行いたいかにについて意見交換をしました。



「キラリ発進! サステイナブルスクール ~ホールスクールアプローチで描く未来の学校~」(2017) (言語: 日)

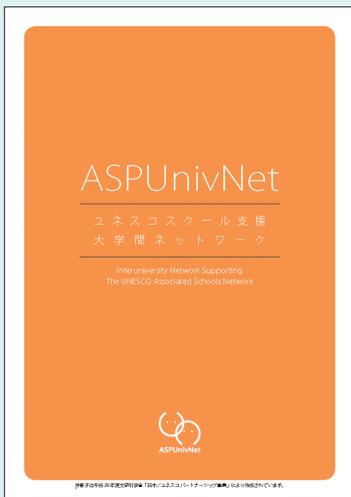
本冊子は、平成28年度日本/ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け、2016年9月より始動したESD重点校形成事業と2016年11月に開催した国際ワークショップの様子を記した一冊です。日本では重点校（以下、サステイナブルスクール）としてどのような学校が選ばれ、どのような活動をしているのか。国際的にサステイナブルスクールとしてどうあるべきなのか。イギリスのアシュレー校校長のリチャード・ダン氏をお招きし、持続可能性の「哲学」を様々なバックグラウンドを持つ参加者と分かち合った様子も紹介しています。

P16の4点はユネスコスクール公式ウェブサイト「教材ルーム」よりダウンロード可能です。
<http://www.unesco-school.mext.go.jp/materials.edu/>



「キラリ発進! サステイナブルスクール ~ホールスクールアプローチで描く未来の学校~ Vol.2」(2018) (言語: 日)

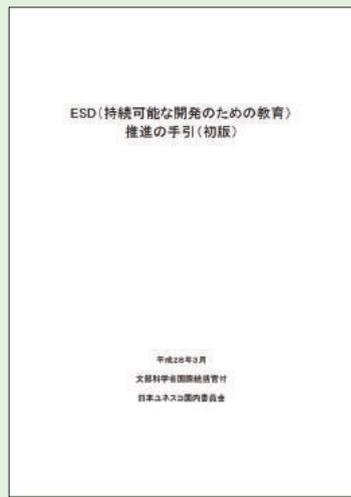
2017年に発行された「キラリ発進! サステイナブルスクール」の第二弾。ACCUではユネスコが提案する機関包括型アプローチに基づき、また国内外の専門家による助言を得て、「ホールスクールアプローチ・デザインシート」を開発しました。ホールスクールアプローチを学校現場に落とし込んで実践するのに役立つ仕組み、ツールとして重点校でも活用されています。2年目を迎えたサステイナブルスクール各校の活動を紹介すると共に、ビジョンを持つ意味、新学習指導要領との関連性などについても掲載しています。



ASPUnivNetパンフレット (2018) (言語: 日・英)

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) に関する総合的な情報が載っています。ASPUnivNet が提供する支援内容の他に、各加盟大学独自の活動についても情報が満載です。
<http://www.unesco-school.mext.go.jp/ASPUnivNet/>

文部科学省の提供する資料



「ESD 推進の手引」(2016) (言語: 日・英)

ESD を学校現場に普及していく立場にある教育委員会および教育センターでESDに関する研修を企画・実施する担当指導主事の方々や学校管理職の先生方等を主な対象とした手引書です。これまでESDについて知らない、または指導方法がわからなかった先生方に対して、ESDの大切さや、学校でのESDの具体的な実践方法等を伝えることを目的にしています。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/09/14/1369326_01.pdf

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)

2016年～2030年の間に世界の目指す目標として2015年に国連本部にて策定されました。17の目標と169のターゲットから成っています。
<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/> (国際連合 HP、英語)
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/ (国際連合広報センター、日本語)

Key Partner

UNESCO Global Action Programme on Education for Sustainable Development

グローバル・アクション・プログラム (GAP)

「国連ESDの10年 (DESD)」の後継枠組みとして2014年に整備されました。5つの優先行動分野が設置され、2015年～2020年が実施年となっています。優先行動分野は①政策的支援 (ESDに対する政策的支援)、②機関包括型アプローチ (ESDへの包括的取組み)、③教育者 (ESDを実践する教育者の育成)、④ユース (ESDへの若者の参加の支援)、⑤地域コミュニティ (ESDへの地域コミュニティの参加の促進) で、ACCUは②の機関包括型アプローチにおけるGAPのキーパートナーです。
<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm> (文部科学省 HP)

あいち・なごや宣言

2014年11月に開催された「閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」で各ステイクホルダーがこれからもESDの取組みを強化して、行動を起こしていくことが示されています。
http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_ja.pdf

ESD 推進のためのユネスコスクール宣言 (岡山宣言)

2014年11月に開催された第6回ユネスコスクール全国大会にて採択されました。ユネスコスクール関係者がGAP推進下でESDを推進することや、更なる教育の質の向上を目指すことが示されています。
<http://www.mext.go.jp/en/unesco/title04/detail04/1373244.htm>

ESD 推進に係る世界と日本の枠組み



ひと目でわかる ESD推進事業ガイド

発行日 2018年3月15日
発行 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
162-8484東京都新宿区袋町6 日本出版会館
TEL : 03-3269-4559 FAX : 03-3269-4510
URL : <https://www.accu.or.jp/jp/index.html>
Email : webmaster@accu.or.jp
翻訳・デザイン・印刷・製本 株式会社メディア総合研究所

©ユネスコ・アジア文化センター2018

Printed in Japan

禁無断転載・複製